

世界が進むチカラになる。



# ASEAN5 景気概況 (2024年6月)

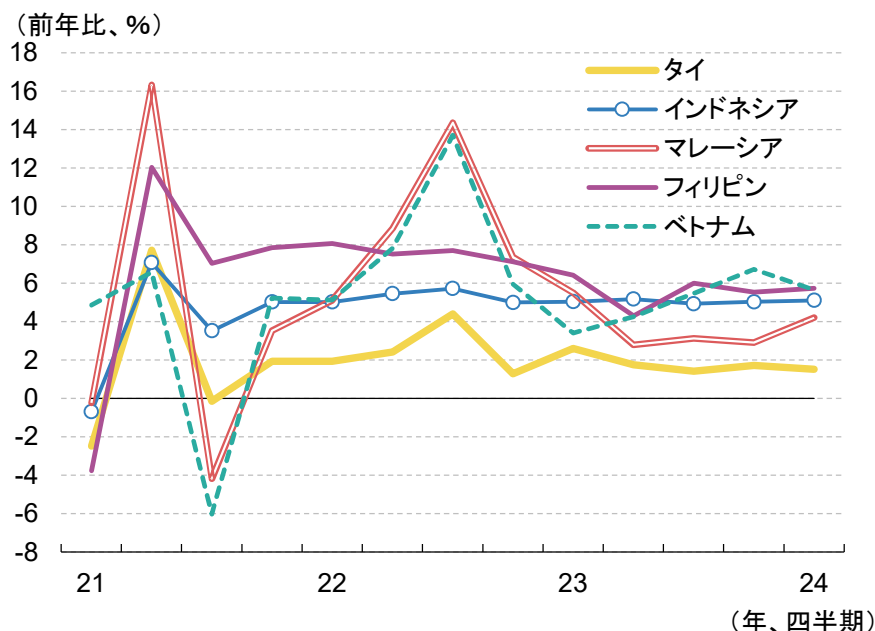
2024年6月7日

調査部 研究員 井口るり子

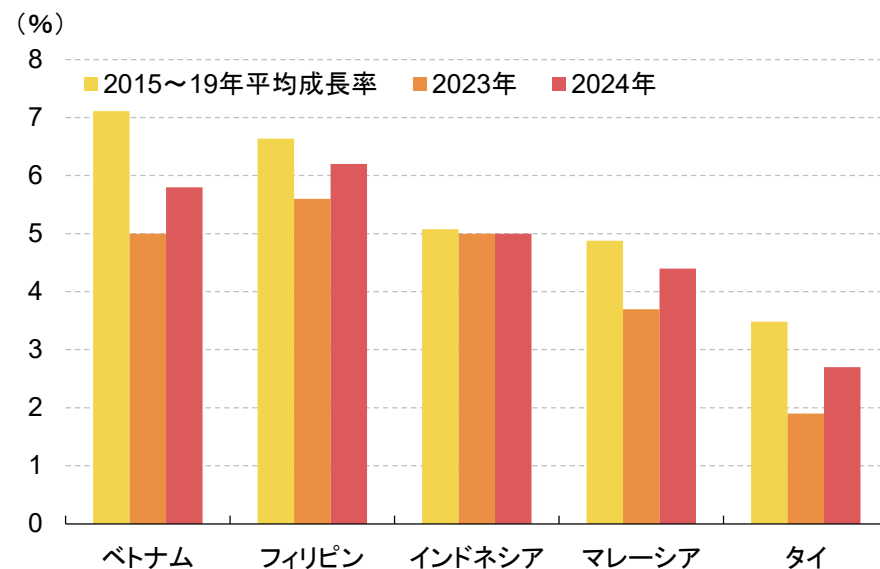
## 【ASEAN5】景気は総じて堅調も、成長率はコロナ前を下回る

- ASEAN5の1～3月期の実質GDP成長率は、フィリピン、マレーシア、インドネシアでは10～12月期から加速、タイとベトナムでは減速した。輸出が回復基調にあるほか、内需も総じて底堅い。先行き、景気はおおむね堅調を維持することが期待されるが、中国経済の低迷がASEANの景気下振れ要因となろう。
- 4月のIMFの見通しによれば、2024年のASEAN5の成長率はインドネシアを除く4ヶ国で23年から加速が予想される。引き続き内需が景気のけん引役となることに加え、輸出の一段の回復が見込まれる。もっとも、コロナ禍前の平均成長率は下回る見通しとなっている。

### 実質GDP成長率



### 実質GDP成長率 (IMF見通し)

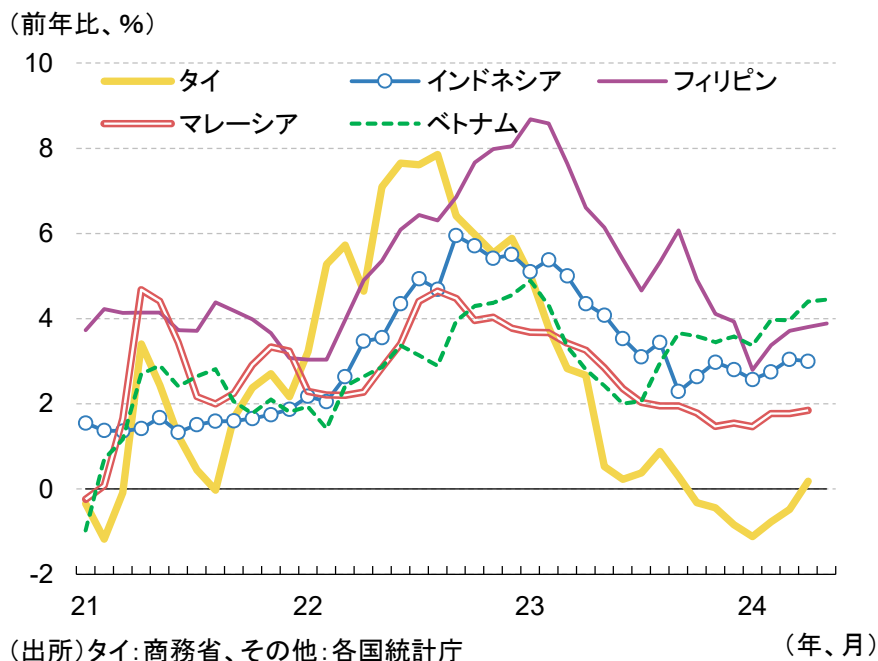


(注) 2024年はIMFによる予測値  
(出所)各国統計庁

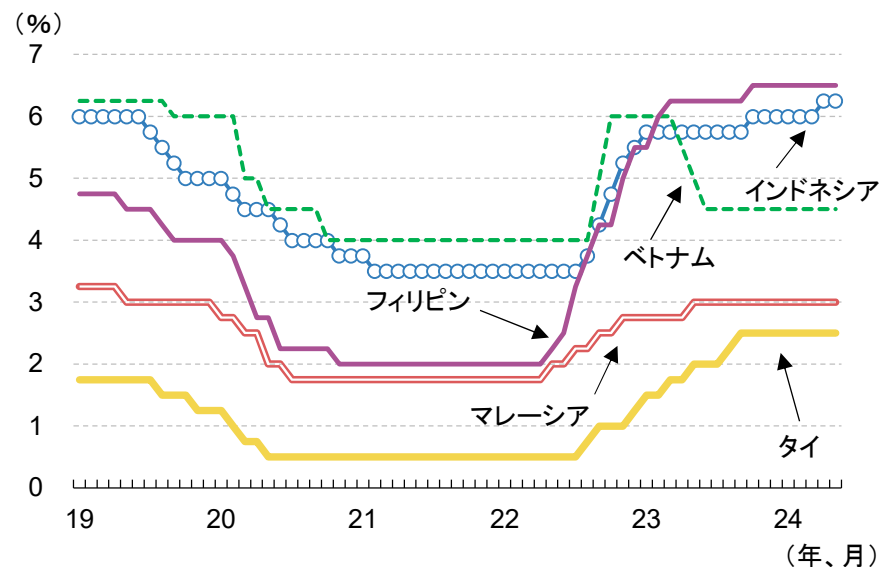
# 【ASEAN5】物価上昇率は再加速の兆し、政策金利は据え置き

- 消費者物価は、4月分まで公表されているマレーシアではわずかに加速、タイでは燃料補助金の縮小や通貨安を背景に上昇に転じた。一方、5月はフィリピンは加速、ベトナムは横ばい、インドネシアは減速となった。各国、食品価格の上昇が物価を押し上げている。先行き、天候要因による農作物の不作が各国のインフレの押し上げ要因となろう。
- 各国の金融政策をみると、5月はマレーシア、フィリピン、インドネシアで金融政策会合が開かれ、いずれも政策金利は据え置かれた。なお、インドネシアでは4月に通貨ルピアの対ドル相場下落を背景に0.25%の利上げが実施された。景気動向と物価動向の安定から、当面、各国で政策金利は据え置かれる公算が大きい。

## 消費者物価指数(総合)



## 政策金利



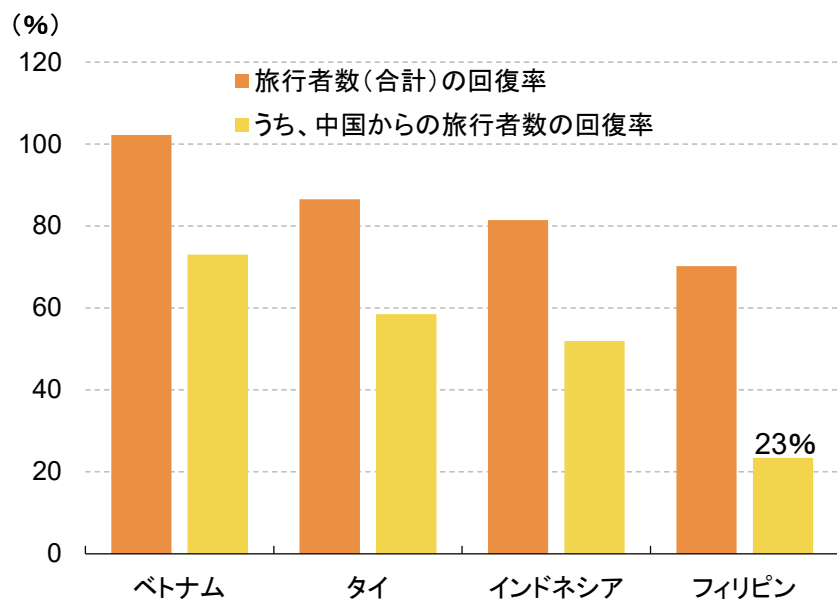
(注1)ベトナムはリファイナンスレート  
 (注2)タイの22年12月の引き上げは、11月30日に決定され12月1日より実施  
 (出所)各国中央銀行



## 【ASEAN5】観光業：中国以外の国からの旅行者誘致が各国の課題

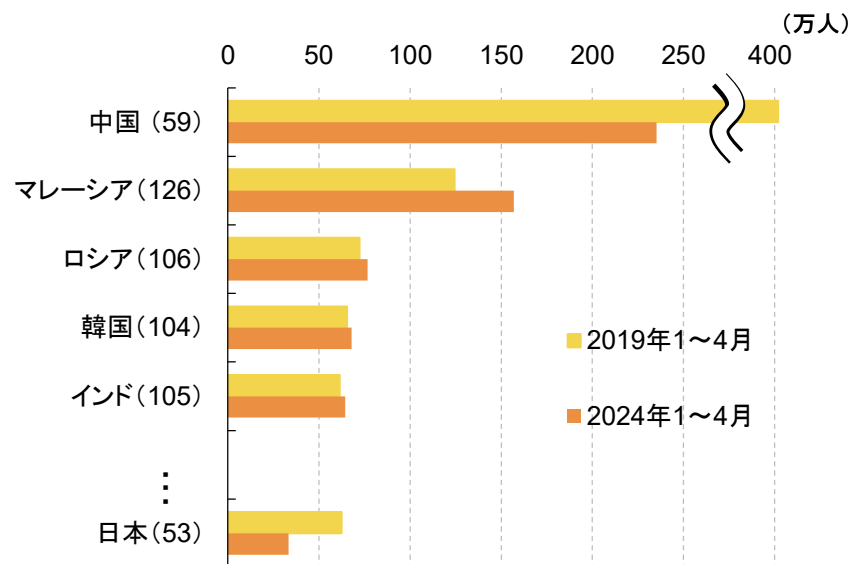
- 2024年1～4月にASEAN5各国を訪れた旅行者の数は、ベトナムを除いて2019年の同時期を下回る。中国の景気低迷で同国の海外旅行者数の回復が遅れていることが、ASEAN各国のインバウンド市場回復の重石となっている。フィリピンではカジノ規制やビザ発給の厳格化から、1～4月の中国人旅行者数が2019年比23%と非常に低い。
- タイでは、マレーシアやロシアなどでのプロモーション活動が奏功し、これらの国からの旅行者数が2019年を上回っている。他方、インドネシアでは主要なマーケットであるマレーシアの旅行者をタイに奪われ、旅行者獲得競争において後れを取っている。中国人旅行者の回復が見込み難い中、中国以外からの旅行者誘致が各国の課題となっている。

旅行者数回復率(1～4月合計、対2019年比)



(出所)各国統計局、観光庁、世界銀行、各種報道

タイを訪れた旅行者の数 国別



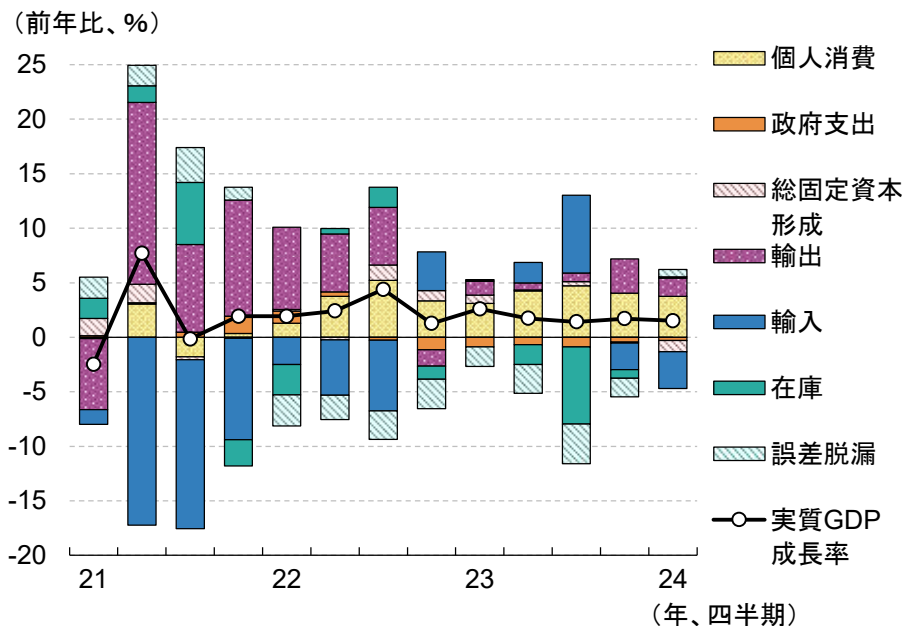
(注) 国名( )内は2024年の対2019年比回復率、%

(出所)タイ観光・スポーツ省

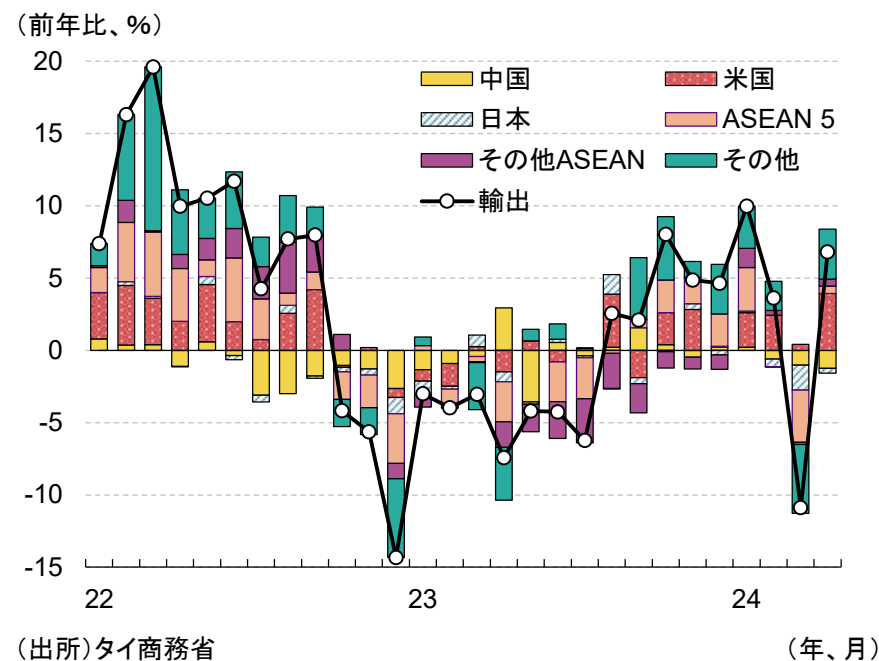
# 【タイ】実質GDP成長率は減速、輸出は4月に増加

- 1～3月期の実質GDP成長率は、+1.5%（前年比、以下同じ）と10～12月期から減速した。コロナ禍前の平均成長率が3～4%程度であったのと比べると低い伸びが続いている。輸出(+2.5%)はサービス輸出(+24.8%)が堅調を維持した一方、財輸出(-2.0%)が減少し、低い伸びとなった。また、個人消費(+6.9%)は高金利や物価高を背景に伸びが縮小した。
- 貿易統計によると、4月の財の輸出金額は+6.8%と増加した。中国向けは農産品輸出の低調により減少が続いているが、半導体輸出が好調な米国向けが輸出回復をけん引している。

## 実質GDP成長率



## 貿易統計 輸出金額



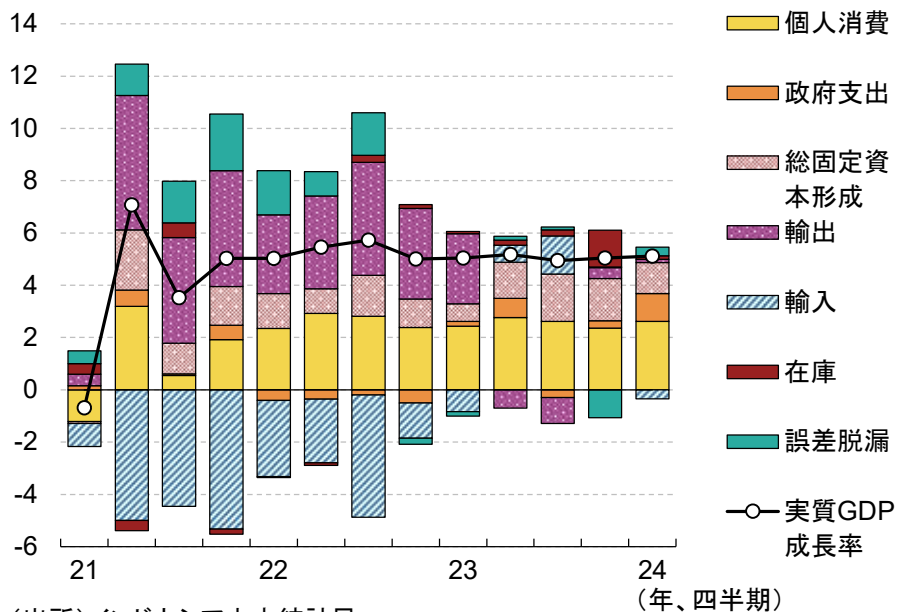


## 【インドネシア】景気は堅調、輸出は持ち直しの動き

- インドネシアの1～3月期の実質GDP成長率は+5.1%(前年比、以下同じ)と堅調が続いている。個人消費(+4.9%)と総固定資本形成(+3.8%)が底堅く推移したほか、政府支出(+19.9%)は大統領選挙の実施により大幅増加した。また、輸出(+0.5%)の増加も続き、全体を押し上げた。
- 貿易統計によると、4月の財の輸出金額は前年比+1.7%と11ヵ月ぶりに増加し、輸出には持ち直しの動きがみられる。中国景気の弱さが輸出回復の重石となっているものの、米国向けやインド向けの堅調が全体を押し上げている。

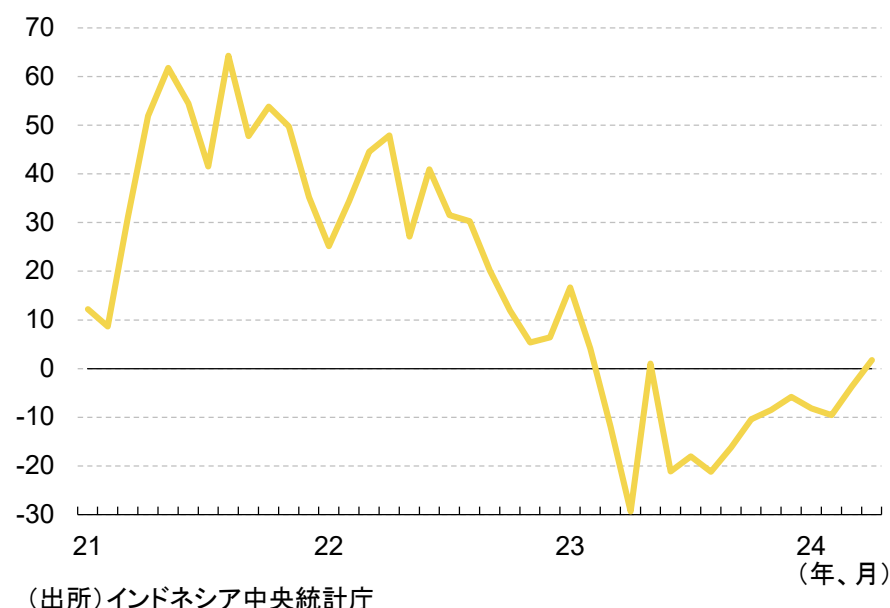
### 実質GDP成長率

(前年比、%)



### 貿易統計 輸出金額

(%, 前年比)



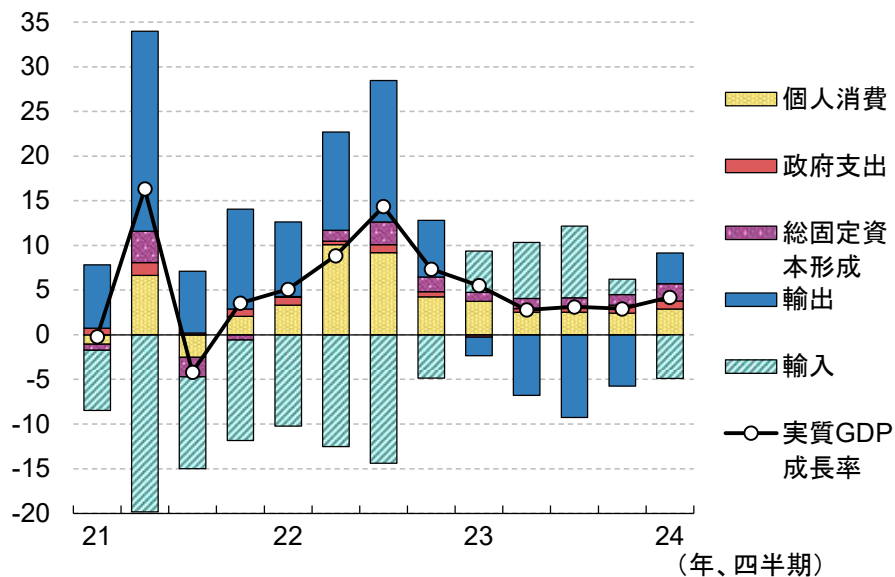


# 【マレーシア】景気は堅調、輸出は持ち直しの動き

- マレーシアの1～3月期の実質GDP成長率は+4.2%（前年比、以下同じ）と10～12月期から加速し、景気は堅調が続いている。個人消費（+4.7%）は雇用環境の改善を背景に底堅く推移した。また、輸出（+5.2%）は財輸出が回復し、5四半期ぶりに増加した。産業別にはGDP全体の25%を占める製造業が+1.9%と3四半期ぶりに前年比増加したほか、建設業は+11.9%と加速した。
- 貿易統計によると、4月の財の輸出金額は前年比+1.7%と3カ月ぶりに増加し、輸出には持ち直しの動きがみられる。品目別にはデータプロセッサなどの機械・輸送機器（+3.8%）が堅調に推移した。

## 実質GDP成長率

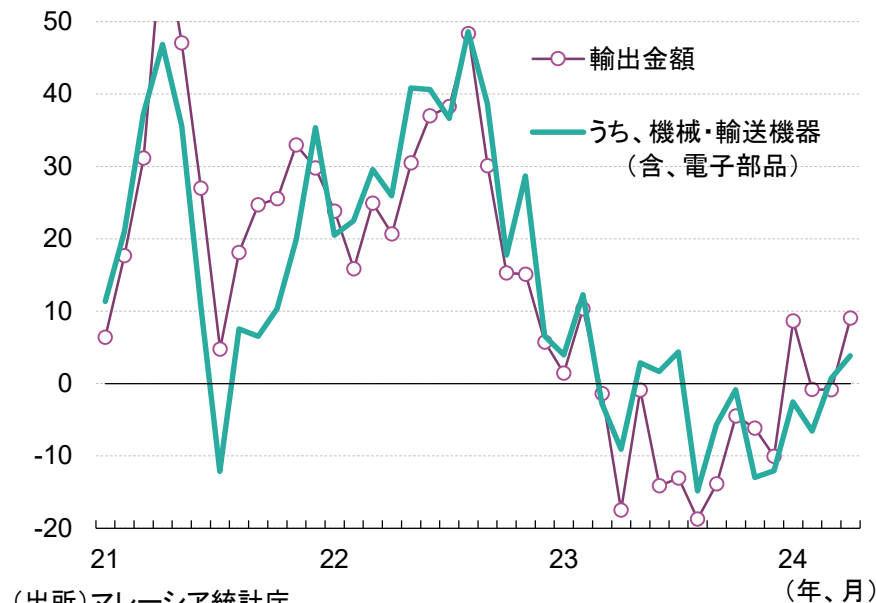
（前年比、%）



（出所）マレーシア統計庁

## 貿易統計 輸出金額

（前年比、%）

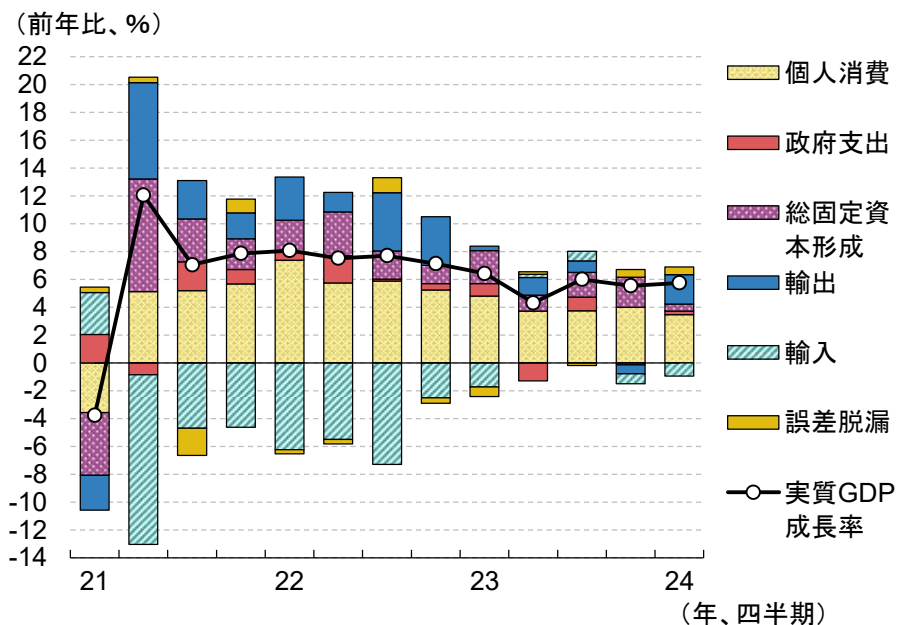


（出所）マレーシア統計庁

# 【フィリピン】景気は堅調、輸出は3カ月ぶりに減少

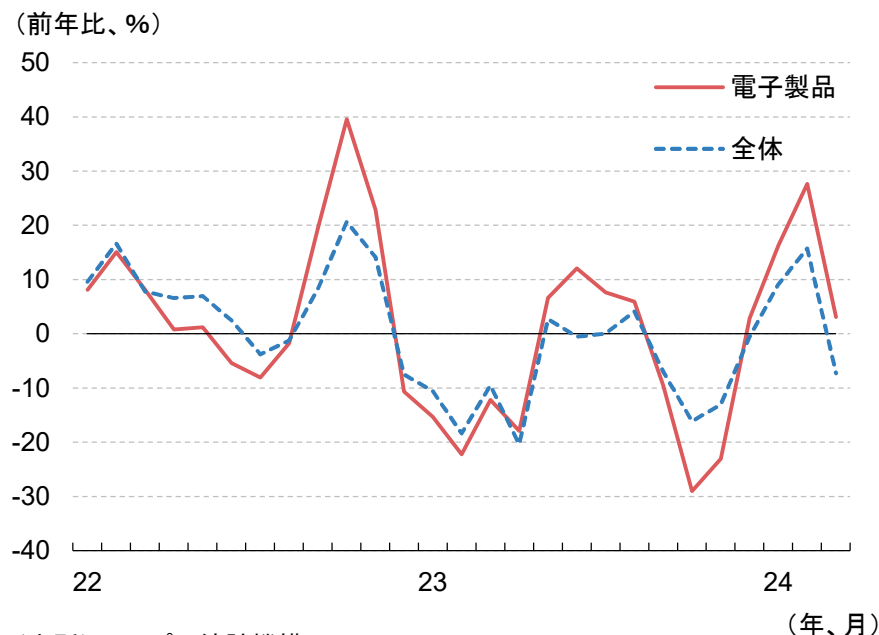
- フィリピンの2024年1~3月期の実質GDP成長率は+5.7%（前年比、以下同じ）と堅調を維持した。個人消費は+4.6%と伸びが鈍化したほか、固定資本形成も減速したが、世界的な半導体需要の持ち直しにより輸出が+7.5%と回復し全体を押し上げた。
- もっとも、貿易統計によると、3月の財の輸出金額は前年比-7.3%と3カ月ぶりに減少した。輸出全体の56%を占める主力の電子製品は+3.1%と4カ月連続で増加したものの、機械・輸送機器（-14.9%）などが減少した。

## 実質GDP成長率



(出所)フィリピン統計機構

## 貿易統計 輸出金額

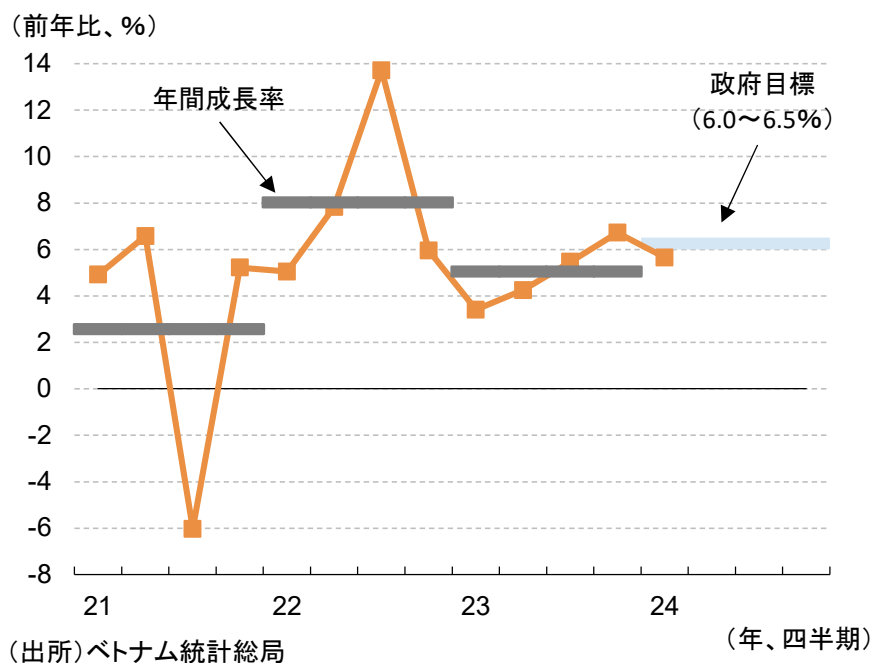


(出所)フィリピン統計機構

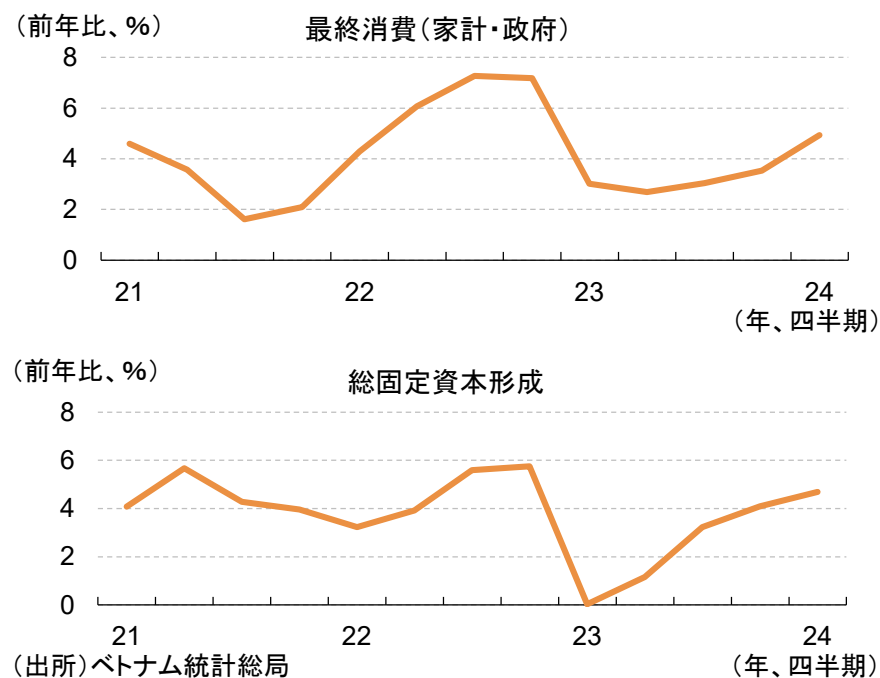
# 【ベトナム】実質GDP成長率は減速、内需堅調が続く

- ベトナムの1～3月期の実質GDP成長率は+5.7%（前年比、以下同じ）と10～12月期から減速した。もともと、内需、外需とも回復基調を維持しており、先行き、景気は堅調が続こう。
- 需要項目別には、GDPの7割弱を占める最終消費（+4.9%）が堅調に推移したほか、4割弱を占める総固定資本形成（+4.7%）の回復が続くなど、内需は底堅い。他方、輸出（+18.0%）は5四半期ぶりに増加に転じたものの、同時に輸入（+17.1%）も増加したため、純輸出（輸出－輸入）でみるとGDP成長率への寄与は限定的にとどまったとみられる。

## 実質GDP成長率



## 最終消費・総固定資本形成(GDPベース)



## ご利用に際して

---

- 本資料は、執筆時点で信頼できると思われる各種データに基づいて作成されていますが、当社はその正確性、完全性を保証するものではありません。
- また、本資料は、執筆者の見解に基づき作成されたものであり、当社の統一的な見解を示すものではありません。
- 本資料に基づくお客さまの決定、行為、およびその結果について、当社は一切の責任を負いません。ご利用にあたっては、お客さまご自身でご判断くださいますようお願い申し上げます。
- 本資料は、著作物であり、著作権法に基づき保護されています。著作権法の定めに従い、引用する際は、必ず、出所：三菱UFJリサーチ&コンサルティングと明記してください。
- 本資料の全文または一部を転載・複製する際は著作権者の許諾が必要ですので、当社までご連絡ください。

(お問い合わせ)調査部 井口 るり子

TEL:03-6733-1628 E-mail:[chosa-report@murc.jp](mailto:chosa-report@murc.jp)

〒105-8501

東京都港区虎ノ門5-11-2 オランダヒルズ森タワー